

## 社会教育指導者・担当者研修のあり方

### — 島根県立生涯学習推進センターの研修体系見直しの過程から —

日野伸哉

(生涯学習教育研究センター)

Training of Directors and Instructors of Social Education

— Training system of Shimane Prefectural Life-Long Learning Promotion Center —

Shinya HINO

#### Abstract

The ideal training system for directors and instructors of social education was investigated by analyzing the process of revising the training system for such people, which was conducted by Shimane Prefectural Life-Long Learning Promotion Center in fiscal 2008.

First, the original training system of Shimane Prefecture was structured and the training needs of city employees were examined. A new training system was constructed by referring to other organizations, through exchanging ideas and by coordinating with concerned agencies (Table 2). Further analysis and revisions were conducted to make the system more realistic and fitting to current trends in social education. The revised training system was finalized (Table 4) and implemented as a three-year training plan.

New items for further investigation were proposed on the basis of the above process, as well as on the operational results of the plan. These included questions such as: "Is the system suitable for the conditions and needs of local communities?" "Is the training useful?" "Is the recognition of training needs increasing?" It is suggested that in the future, in addition to the above factors, the consciousness and condition of trainees, such as motivation for the training and hindrances to participation in training, should also be considered.

#### I. はじめに

近年の社会教育を取り巻く環境は厳しい状況にある。「自治体の財政難」「社会教育予算の削減」「社会教育主事の減少」「公民館職員の減少」「市町村合併による調整段階での混乱」「公民館等社会教育施設の一般行政部局への移管」「指定管理制度の導入」などの問題をあげれば、まさに逆風状況といってよいだろう。島根県にも、この逆風は吹いている。“近年、生涯学習支援・社会教育を所管する教育行政には、かつてのような活力が感じられない。とりわけ、教育委員会の社会教育を担当する職員は、出口の見えない閉塞感に苦悩しているようである<sup>1)</sup>”

ともいわれている。

しかし、一方で、平成18年に改正された教育基本法第12条において、「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない」と規定され、社会教育において、「個人の要望」と「社会の要請」のバランスのとれた学習機会を提供することが求められた。そして、平成20年に改正された社会教育法により、社会教育の4つの新たな任務として、「学習成果の活用による社会全体の教育力の育成」「学校・家庭・地域の連携協力関係の構築」「学校への支援」「家庭教育への支援」が明確にされた。これは、法的に社会教育の必要性和今後の方向性を示しているといえる。

このような背景の中、鳥根県教育委員会は、平成22年4月、生涯学習課を社会教育課へ17年を経て再び課名変更し、“「個人の要望」に応えるかたちでなされるが多かったこれまでの学習支援から「社会の要請」に基づく学習支援に、行政運営の軸足を置きかえることにより、両者のバランスをとり社会教育行政の任務を果たしていくことにした<sup>2)</sup>”のである。

また、同時に、鳥根県立生涯学習推進センター（以下、「生涯学習推進センター」という。）を鳥根県立社会教育研修センター（以下、「社会教育研修センター」という。）とし、“広く県民を対象としてきた直接的な学習機会の提供は、市町村、大学などが開催する講座やNPO法人、民間サービスなどに委ね、これからは公民館関係者など社会教育の実践者を対象に社会教育指導者の養成と調査・研究に特化することにした<sup>2)</sup>”のである。

平成20年度までの生涯学習推進センターは、「しまね県民大学」と称した一般県民を対象とする学習機会の提供事業と生涯学習担当者・指導者研修事業をほぼ半々の割合で実施してきた。しかし、役割機能の見直し・名称変更にもない、「しまね県民大学」を廃止し、社会教育指導者・担当者研修を役割機能の大きな柱とすることになった。また、この研修は、センター社会教育主事が講師を務め、全面的に研修を企画・立案・運営・評価していくことになったのである。

平成22年4月の役割機能の見直し・名称変更を先取りするかたちで、平成21年度の社会教育指導者・担当者研修の体系をつくりあげることが、平成20年度生涯学習推進センターの喫緊の課題となった。鳥根県の地域の実態に応じた、社会教育指導者・担当者のニーズにあった、県社会教育行政の体制に応じた、鳥根県独自の研修体系づくりが求められたのである。

前述のように、逆風が吹く中、今後、社会教育を推進し、生涯学習社会の実現をめざし、社会全体の教育力を高めるためには、社会教育指導者・担当者研修の重要性はいうまでもない。さらに、今後ますます社会教育指導者・担当者研修の質の向上が求められていくことも容易に推測できる。

本稿では、平成20年度生涯学習推進センターが取り組んだ「社会教育指導者・担当者研修の体系見直しの過程」を明らかにし、今後の社会教育指導者・担当者研修のあり方を考えていきたい。

なお、本稿でいう「社会教育指導者・担当者」とは、主に市町村社会教育担当者・公民館等社会教育施設職員を指すこととする。

## Ⅱ. 研修体系見直しの過程

平成20年度まで実施していた「生涯学習担当者・指導者研修」を全面的に見直し、新しい研修体系をつくりあげるための作業は、模索状態からはじまった。まずは、島根県独自の研修体系の基本となる考えを明確にするため、派遣社会教育主事等研修会での成果を活用することから取り組んだ。

### 1. 平成20年度第3回派遣社会教育主事等研修会の成果から

島根県では、派遣社会教育主事等研修会を年間3回、宿泊研修を含む合計8日間、県教育庁社会教育課が主催して実施している。平成20年度第3回の研修において、「社会教育指導者・担当者に必要な資質・能力」をテーマに県内社会教育主事が、ワークショップから次のような「理想の姿」と「資質・能力」を導き出した。

#### 【社会教育指導者・担当者の理想の姿】

- 社会教育指導者・担当者としての自覚をもち、社会教育の役割を理解している。
- よりよい地域の姿がイメージでき、それを実現するためのビジョンが描ける。
- ビジョンを実現するための幅広い知識・技能を身につけている。
- 地域教育力の向上のため、やる気と熱い想いをもち、実行できる。
- 地域課題をみつけ、課題解決のための適切な学びの場を提供できる。

#### 【社会教育指導者・担当者に必要な資質・能力】

- 生涯学習・社会教育の基礎的理解 [知識]
- 社会教育・公民館等社会教育施設の役割の理解 [知識]
- 人権教育に関する理解 [知識]
- コミュニケーション能力 [技能]
- コーディネート能力 [技能]
- カウンセリング能力 [技能]
- プレゼンテーション能力 [技能]
- 地域情報の収集能力 [技能]
- 地域課題の把握力 [技能]
- 課題解決のための企画・立案力 [学習機会の提供]
- 運営力 [学習機会の提供]
- ファシリテート力 [学習機会の提供]
- 評価力 [学習機会の提供]
- チラシ・広報誌作成能力 [情報発信]

島根県の各市町村の実態を把握し、地域の社会教育担当者・指導者と一緒に、かかわりながら日夜奮闘している派遣社会教育主事が中心となって導き出した「社会教育指導者・担当者に必要な資質・能力」は、島根県の地域の実態に応じたものにとらえ、これをもとに、島根県独自の基本となる研修体系を構造化したものが次の表1である。

表1. 社会教育指導者・担当者に必要な資質・能力から構造化した基本となる研修体系<sup>3)</sup>

領域	必要な資質・能力	考えられる学習内容
基礎的知識	生涯学習・社会教育の基礎的理解	生涯学習社会における社会教育の意義
		地域づくりにおける社会教育の役割
		県・市町村の社会教育行政
	社会教育施設の役割	社会教育施設の役割と現状
	人権・同和教育	社会教育と人権意識
人間関係づくり	コミュニケーション力	コミュニケーションの理論と実践
	カウンセリング力	カウンセリングの理論と実践
コーディネート技法	コーディネート力	コーディネーターとしての役割と実践
	プレゼンテーション力	プレゼンテーションの理論と実践
地域情報の収集と提供	情報収集・提供力	地域情報の種類と収集法
		情報収集の実際
		情報の分類・整理・分析・活用法
学習機会の提供	企画力・立案力	地域課題の分析と課題設定
		地域課題解決のための学習方法と内容
		プログラムの企画・立案
	運営力	研修・講座の運営
		ファシリテートの実践
評価力	学習評価の意義と方法	
情報発信	情報発信力 (パソコン技能)	効果的なチラシ作成のポイントと実際
		PCを活用したプレゼンの方法と実際
		映像・写真編集の方法と実際

## 2. 平成18年度「公民館等職員の職務及び研修状況に関する実態調査」から

平成18年度に生涯学習推進センターは、“公民館等職員の勤務実態を把握するとともに、職員の専門研修に対する意識や受講実態調査を行い、生涯学習推進センターの生涯学習担当者・指導者研修の体系化のための資料とする。また、担当者・指導者研修における島根大学と県との連携のための基礎データとする<sup>4)</sup>”ため、島根大学生涯学習教育研究センター（以下、「本学センター」という。）との連携事業として、「公民館等職員の職務及び研修状況に関する実態調査」を実施している。

この調査から、県内公民館等職員の実務担当者の研修に対するニーズを分析することを第2の作業とした。本稿では、研修ニーズを分析するための主な調査項目である「公民館等職員として今後必要な知識・能力（資質）について」「公民館等職員が担当する職務及び分野の中で今後重要となるもの」「今後、県が行う生涯学習担当者・指導者研修に期待すること」の3つをとりあげることにする。

この3つの調査項目結果は、次の図1・図2・図3のとおりである。

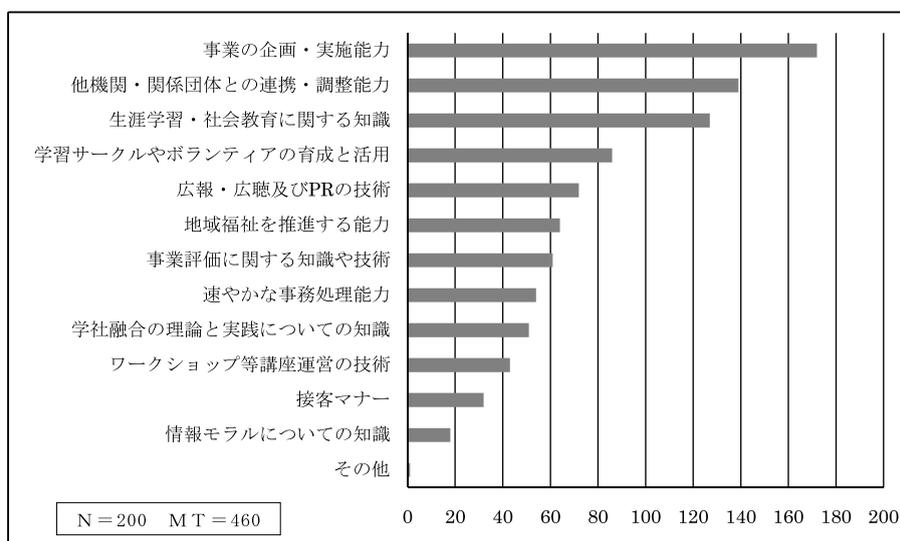


図1. 公民館等職員として今後必要な知識・能力 (資質) について<sup>5)</sup>

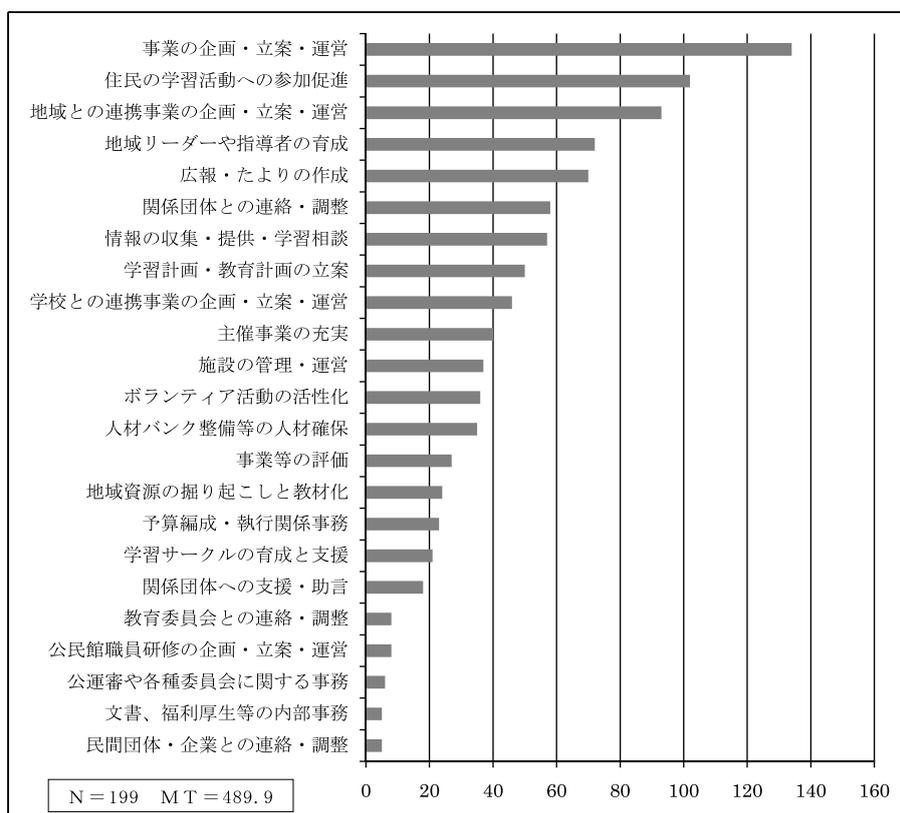


図2. 公民館等職員が担当する職務及び分野の中で今後重要となるもの<sup>5)</sup>

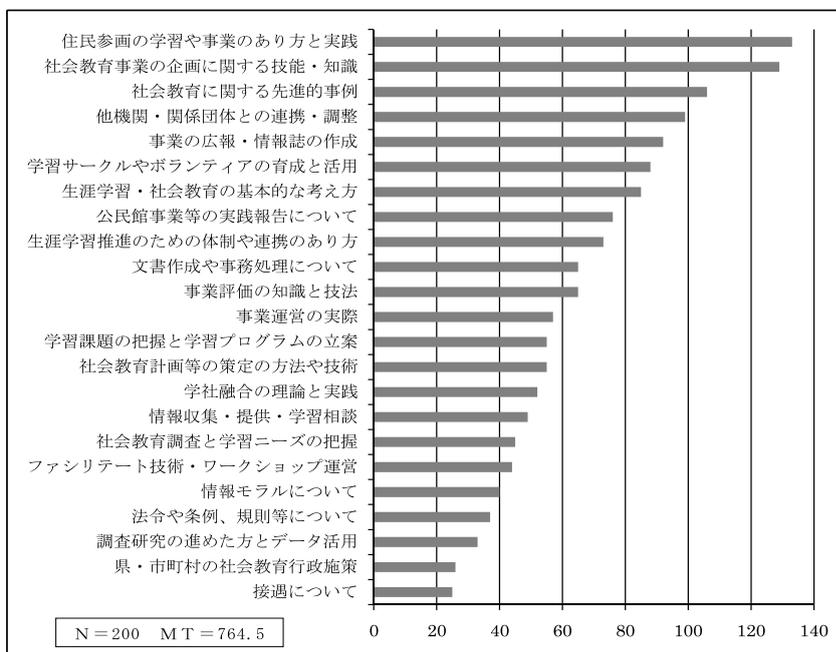


図3. 今後、県が行う生涯学習担当者・指導者研修に期待すること<sup>5)</sup>

これらの調査結果から、「社会教育事業の企画・立案・運営能力」「住民が参画できる学習機会の提供」「地域や関係機関・団体等との連携・調整能力」「生涯学習・社会教育に関する知識」「社会教育に関する先進的事例」「広報技術」等の知識・技能を高めることのできる研修を強く望んでいることがわかる。このことは、前述の島根県独自の基本となる研修体系とも一致しているといえる。

### 3. 他機関の研修体系からの検討と関係機関との協議・連携による実施可能な研修体系づくり

島根県の実態に応じた研修体系づくりに取り組む一方で、社会の要請に応えるものであり、社会教育の動向に対応するものにしていく必要が当然ある。

そこで、国立教育政策研究所社会教育実践研究センターの「平成19・20年度社会教育主事講習 [B]」及び「コーディネーター養成プログラムの構造モデル<sup>6)</sup>」、 「平成18年度広島大学社会教育主事講習」等の研修領域・テーマ・学習内容・学習方法・時間等を全て洗い出した。そして、島根県独自の基本となる研修体系と照らし合わせ、整合性を図るとともに、不足の領域・テーマ・学習内容等の確認作業を行った。

これまで述べてきた作業や検討をとおして、研修体系はできあがりつつあるものの、それは、生涯学習推進センターだけでつくったものである。いわば机上の理想的な研修体系である。よって、生涯学習推進センター以外の関係機関からの情報提供と協議が必要であり、さらに、実施可能な研修体系とするため、関係機関の連携・協力を仰ぐ必要があった。

そこで、県教育庁社会教育課の社会教育主事との協議を重ね、さらには、島根大学教育支援センター教員・県立少年自然の家、県立青少年の家の社会教育主事との意見交換も行った。

これらの過程をとおして、できたあがった研修体系一覧が次の表2である。

表2. これまでの過程をとおしてできあがった研修体系一覧<sup>3)</sup>

研修区分	学習テーマ	内 容	方 法	時 間	社会教育委員	PTA指導者	公民館館長	公民館主事・職員	コーディネーター	地域ボランティア	指導員ケア・ワーカー	地域コーディネーター	教 員	地域ボランティア	子育てサポーター	市町村派遣の社会教育事
基礎	生涯学習の意義と社会教育の役割	<input type="checkbox"/> 生涯学習の定義と意義(生涯学習とは) <input type="checkbox"/> 生涯学習社会における社会教育の役割 <input type="checkbox"/> 生涯学習と社会教育	講義・(演習)	1.5	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会教育の意義と特性	<input type="checkbox"/> 社会教育の歴史 <input type="checkbox"/> 社会教育の定義と意義(社会教育とは) <input type="checkbox"/> 社会教育の役割と今後の社会教育	講義・(演習)		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	地域社会と社会教育	<input type="checkbox"/> 学校教育・家庭教育の現状と課題 <input type="checkbox"/> 家庭・学校・社会の連携と地域教育の向上 <input type="checkbox"/> 社会教育・生涯学習の推進とまちづくり	講義・(演習)	1.5												
	社会教育行政の展開と関係法令	<input type="checkbox"/> 我が国・本県の社会教育行政施策の動向 <input type="checkbox"/> 関係法令と最近の動向 <input type="checkbox"/> 社会教育行政の意義と役割	講義・(演習)	1.5	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	社会教育指導者・担当者の役割	<input type="checkbox"/> 社会教育指導者の職務と資質・能力 <input type="checkbox"/> これからの社会教育担当者求められるもの	講義・(演習)	1.5	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	公民館等社会教育施設経営	<input type="checkbox"/> 社会教育施設の種別と機能 <input type="checkbox"/> 社会教育施設の実状と求められる役割	講義・(演習)		◎		○									○
	社会教育の内容及方法	<input type="checkbox"/> 社会教育の内容及方法・形態 <input type="checkbox"/> 学習方法及種類 <input type="checkbox"/> 学習成果の評価と活用	講義・(演習)													
	学習者の特性と理解	<input type="checkbox"/> 発達段階から見た学習者の区分と特性 <input type="checkbox"/> 学習者集団形成のプロセスと支援のあり方 <input type="checkbox"/> 学習成果の活用	講義・(演習)	1.5	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人権教育(推進センターでの講座は実施しない) ※別な人権教育講座で対応	<input type="checkbox"/> 人権教育と社会教育 <input type="checkbox"/> 社会教育指導者に必要な人権感覚 <input type="checkbox"/> 地域における人権教育の実践	講義・(演習)		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	課題別	学校と地域社会(学社連携組合)	<input type="checkbox"/> 学社連携・統合の意義と実践 <input type="checkbox"/> 学校教育に対する社会からのアプローチ <input type="checkbox"/> 社会教育に対する学校教育からのアプローチ	講義・演習・事例	3	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○
家庭教育と社会教育		<input type="checkbox"/> 家庭を取り巻く諸課題と社会教育の役割 <input type="checkbox"/> 家庭教育の充実と支援 <input type="checkbox"/> 親の学びを支える学習機会の提供	講義・演習	3	○	○	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎
子ども理解と社会教育		<input type="checkbox"/> 子どもの発達と特性 <input type="checkbox"/> 子どもの発達段階と支援のあり方	講義・演習・事例	3					○	○	○	○	◎	◎		
住民参画と協働によるまちづくり		<input type="checkbox"/> 地域における協働事業の実践 <input type="checkbox"/> 地域協働の活性化と運営 <input type="checkbox"/> 地域リーダーの養成とそのプロセス	講義・演習	3	◎	○	◎	◎	○	○	○	○				◎
高齢化社会とまちづくり		<input type="checkbox"/> 高齢化と社会教育 <input type="checkbox"/> 高齢化社会の現状と課題 <input type="checkbox"/> 学習成果を地域づくりに生かす	講義・演習・事例	3												◎
ボランティアの意義と役割		<input type="checkbox"/> ボランティアの概念と意義 <input type="checkbox"/> ボランティア活動の種類とその役割 <input type="checkbox"/> これからのボランティアに求められること	講義・演習・事例	6	○	○			○	○	○	○	◎	◎	○	◎
特別支援を要する子どもへの対応		<input type="checkbox"/> ADHA、LD、アスペルガー症候群等の発達障害の理解 <input type="checkbox"/> 発達障害の子どもへの対応	講義・演習	3		○			◎	◎	○	○	◎	◎	○	◎
安全管理・安全対策		<input type="checkbox"/> 危機管理と危険管理 <input type="checkbox"/> 安全予知トレーニングの理論と実践 <input type="checkbox"/> 安全点検の理論と実践	講義・演習	3						◎	◎	○	◎	◎	○	◎
著作権の基礎		<input type="checkbox"/> 著作権の基礎理解 <input type="checkbox"/> 具体的な場面での著作権	講義	3												
情報モラル		<input type="checkbox"/> 個人情報と情報セキュリティ <input type="checkbox"/> サイバー犯罪から身を守るために <input type="checkbox"/> ネット社会の光と影	講義・演習	3		○			○	○	○	○	○	○	○	◎
専門	プログラム立案・企画力	<input type="checkbox"/> モデル市町村の概要の把握 <input type="checkbox"/> 社会教育の現状と課題 <input type="checkbox"/> 年間事業計画・個別事業計画	講義・演習	12		○	◎	◎	○	○	○	○			○	
	コミュニケーション力	<input type="checkbox"/> コミュニケーション・プログラムの理論と実践 <input type="checkbox"/> 動機・共感・提案・説得等の理論的理解 <input type="checkbox"/> コミュニケーションの重要性	講義・演習	6		○	◎	◎	○	○	○	○			○	
	ファシリテーション力・学習運営力 No.1・No.2	<input type="checkbox"/> 参加型学習の意義 <input type="checkbox"/> アイスブレイク・ワークショップ体験 <input type="checkbox"/> ファシリテーターに求められる資質や能力	講義・演習	12		○	○	○	○	○	○	○			○	
	コーディネート力・組織力	<input type="checkbox"/> コーディネーターに求められる資質や能力 <input type="checkbox"/> コーディネートの手法と実践 <input type="checkbox"/> コーディネートの理論と実践	講義・演習	6		○	○	○	○	○	○	○			○	
	地域情報収集・構造化・活用	<input type="checkbox"/> 地域情報の種類と収集方法 <input type="checkbox"/> 地域ニーズ把握の方法と分析 <input type="checkbox"/> 情報の分類・整理の仕方と活用	講義・演習	6	◎		◎	◎				◎				
	学習相談	<input type="checkbox"/> 学習相談提供・学習相談の意義 <input type="checkbox"/> 学習相談の内容と方法 <input type="checkbox"/> 学習相談員に求められる資質や能力	講義・事例	3			◎	◎								
	ネットワーク論・診断スキル (学習内容が他のテーマと重複しているため実施しない)	<input type="checkbox"/> ネットワークの必要性と期待される効果 <input type="checkbox"/> ネットワークの形成・連携のあり方 <input type="checkbox"/> ネットワーク診断スキルの理論と実践	講義・演習・事例						○	○	○	○				◎
	地域課題分析・地域診断の内容と方法 (地域情報収集・構造化・活用の内容に含むため実施しない)	<input type="checkbox"/> 地域ニーズと課題の把握 <input type="checkbox"/> 調査方法と分析 <input type="checkbox"/> 地域診断スキルの理論と実践	講義・演習		◎	○	◎	◎				◎				◎
	学習評価の内容と方法 (社会教育方法と内容を含むため実施しない)	<input type="checkbox"/> 社会教育における評価の視点 <input type="checkbox"/> 評価の意義と視点 <input type="checkbox"/> 事業評価の実践	講義・演習		○		○	○				◎	◎	◎		◎
	教育相談 カウンセリング (学習相談・カウンセリングの内容を含むため実施しない)	<input type="checkbox"/> 教育相談の意義と機能 <input type="checkbox"/> 教育相談の内容と方法 <input type="checkbox"/> カウンセリングマインド	講義・演習						○	○	○	○				
実践研修	プレゼンテーション力	<input type="checkbox"/> プレゼンテーション作成の基礎知識 <input type="checkbox"/> プレゼンテーションの作成 <input type="checkbox"/> 効果的なプレゼンテーションを行うためのポイント	講義・実習	3		○	◎	◎				○			◎	
	広報誌・チラシ作成スキル	<input type="checkbox"/> ワーコン技能(ワード・パワーポイントの他、) <input type="checkbox"/> 効果的な広報誌・チラシ作成のポイント <input type="checkbox"/> 広報誌・チラシの作成	講義・実習	3												
	映像編集	<input type="checkbox"/> 基本的な撮影技術とポイント <input type="checkbox"/> 映像編集の実践	講義・実習	3												

表2のように、この時点での研修体系一覧はできたが、生涯学習推進センター社会教育主事が講師を務め、全面的に研修を企画・立案・運営・評価していく体制にするには、さらなる見直しが必要であった。また、「島根県独自の研修体系」「社会教育指導者・担当者のニーズにあった研修体系」との整合性をさらに検討し、修正する作業にも再度取り組むことに迫られた。

また同時に、県教育庁社会教育課の研修事業との共催により、外部講師を招いた研修も取り入れ、研修の質の向上を図るため、さらに調整する必要もあった。

これらの見直し・調整・検討を行い、平成21年度から実施する「社会教育指導者・担当者研修体系」を構築した。その「平成21年度研修体系一覧」が次の表3である。

表3. 平成21年度 生涯学習推進センター実施「社会教育指導者・担当者研修体系一覧」<sup>3)</sup>

### 1 基礎研修

※印…外部講師による研修 または 事例発表・関係機関講師等を含む研修

社会教育・地域活動に必要な基礎的知識、スキルや島根県の実況などを学びます。

No.	講座名	内 容
1	しまねの社会教育入門※	社会教育の基本的な考え方や県の社会教育の現状などについて学びます。
2	社会教育施設入門※	社会教育施設の運営のあり方や役割について学びます。
3	参加型学習入門	参加型学習の基礎的な理論を学んだり、アイスブレイクやグループワークを体験したりします。
4	コミュニケーション術入門	傾聴の大切さや効果的なコミュニケーションについて考え、実体験します。
5	プレゼンテーション術入門	プレゼンテーションの基本的知識を学び、聞き手にわかりやすい伝え方を演習します。

### 2 専門研修

社会教育の実践活動に対応した専門的な知識や指導技術を学びます。

No.	講座名	内 容
1	コミュニケーション・プログラム実践講座※	コミュニケーション・プログラムにより、対人力を高めます。
2	コーディネート術実践講座※	“つなぐ”視点や手法を学び、コーディネート力を高めます。
3	参加型学習実践講座	参加型学習の進行役の役割を学び、実際に体験してみます。
4	プログラム立案実践講座※	企画立案の演習を通して、プログラム・デザイン力を高めます。

### 3 課題別研修

社会教育・学校教育の現場で活躍する方々の抱える課題の解決に向けた具体的な方策を学びます。

No.	講座名	内 容
1	学校教育と社会教育（学社連携・融合）※	ふるさと教育の効果・有用性を一層高めていくため、学社連携・融合のあり方や具体的な方法論について研修します。
2	家庭教育と社会教育	家庭を取り巻く課題と社会教育の役割について考えます。
3	子ども理解と社会教育※	社会教育の視点から子どもたちへの関わり方、支援のあり方を事例を通して学びます。
4	子どもの育ちと安全管理・安全対策※	子どもたちを地域で育むための安全指導・安全管理のポイントを学びます。
5	ボランティアの意義と役割※	子どもたちの活動を支援するボランティアの意義と役割について学びます。

#### 4 メディア研修

地域活動を推進していく上で必要なパソコンや映像編集の技術を習得できます。

No.	講座名	内容
1	パソコンを使った映像編集入門※	ムービーメーカーを活用して、簡単なデジタル映像編集の基本的な操作を学びます。
2	パワーポイント入門	パワーポイントの基本的な操作について学びます。
3	チラシ・広報誌作成入門	作成のポイントを学び、パワーポイントでチラシ・広報誌を作成します。

##### 5-1 その他の研修……しまね学習支援プログラム〔親学プログラム〕体験講座

しまね学習支援プログラム「乳幼児の健やかな成長のために～親学講座標準進行マニュアル～」の進行役として必要な知識やスキルを学びます。

##### 5-2 その他の研修……オプション・出前講座

生涯学習推進センターが提供できる研修・講座を市町村・社会教育団体等の要望に応じて実施します。

このように、研修体系を「基礎研修」「専門研修」「課題別研修」「メディア研修」「その他の研修」と区分し、「基礎研修」は概ね経験が3年未満の方を対象に現場の業務実践に直接活かせる研修として、「専門研修」は概ね経験が3年以上の方を対象に社会教育の専門的な知識や技能を向上させる研修として、「課題別研修」は現代的課題・地域課題の解決をめざす方を対象に具体的な方策を学ぶ研修として、「メディア研修」は社会教育推進のためパソコンの技術向上をめざす方を対象とする研修として、それぞれ位置づけた。

また、生涯学習推進センターから遠隔地の市町村にも研修を提供するため、市町村や関係団体の要望にも応じるため、「オプション・出前講座」を設けることにした。

### Ⅲ. 生涯学習推進センター・社会教育研修センターの新しい研修体系の実施と評価

これまで述べてきたような過程を経て構築した「社会教育指導者・担当者研修体系」を平成21年度から23年度までの3年間、基本的には形を変えず実施することになった。そして、この3年間で、各市町村の規模や実態・状況に応じてバランスよく社会教育指導者・担当者を養成することとした。

研修体系見直し前の「平成20年度生涯学習担当者・指導者研修」、全面的に見直した「平成21・22年度社会教育指導者・担当者研修」の実施状況の推移を表したものが次の表4である。

表4. 平成20年度～22年度 生涯学習・社会教育指導者・担当者研修の実施状況の推移<sup>3)</sup>

平成20年度					平成21年度					平成22年度																	
年間計画講座					年間計画講座					年間計画講座																	
講座名	東部	西部	時間	参加数	No.	講座名	東部	西部	時間	参加数	満足度	No.	講座名	東部	西部	時間	参加数	満足度									
生涯学習指導者・指導者研修	生涯学習講座①	1	1	5	42	基礎研修	1	しまねの社会教育入門	2	2	3	21	1	しまねの社会教育入門	2	1	3	16	86.3								
				6	29						3	12					3	14	80.5								
	生涯学習講座②	1	1	6	75						3	30					3	28	84.6								
				6	23						3	17					83.5	3	22	88.8							
	生涯学習講座③	1	1	6	43						2	社会教育施設入門					2	2	3	18	2	社会教育施設入門	2	1	3	15	81.5
				6	25		3	41	3	37			89.4														
							3	17	3	30			91.8														
							3	12	83.8	3			17	90.6													
							3	45	3	13			92.7														
							3	参加型学習入門	2	2	3	26	88.9	2	コミュニケーション術入門	2	1	3	32	94.5							
											3	17	3					18	90.8								
											3	11	87.5					3	55	92.0							
											3	21	92.4					3	23	94.0							
											3	12	95.3					3	80	90.6							
							5	プレゼンテーション術入門	2	0	3	23	92.1	2	プレゼンテーション術入門	2	3	3	23	94.0							
					3	13					88.8	3	13					87.8									
体験活動ボランティア活動支援者研修	1	1	5	51	専門研修	1					コミュニケーション・プログラム実践講座	1	1					6	61	95.3	1	コミュニケーション・プログラム実践講座	1	1	6	59	95.4
			5	30														6	41	6					52	97.3	
																		6	50	6					58	87.2	
							6	66	94.8	6				50	95.0												
							12	10	12	9				90.1													
ファシリテーター体験講座	1	1	12	23		3	参加型学習実践講座	1	1	12	13	86.1	1	参加型学習実践講座	1	1	12	27	86.0								
			12	17						12	9	12					7	91.1									
										12	8	12					9	92.5									
										1	学校教育と社会教育(学社連携・融合)	3					2	4	148	3	親学ファシリテーター養成研修	3	2	12	6	95.5	
																		3	36					81.6	12	11	93.2
						3	135	3	7				94.4														
						3	186	12	11				96.8														
						3	103	74.8	12				15	96.3													
						2	家庭教育と社会教育	1	0	3	62	80.6	3	学校教育と社会教育(学社連携・融合)	3	2	3	7	84.5								
										3	32	3					45	77.3									
					3					13	3	81					79.8										
					6					37	3	60															
					6					71	90.3	3					91										
					5	ボランティアの意義と役割	1	1	6	25	1	子ども理解と社会教育	1	1	3	91	80.2										
									6	24					92.8	3	58	86.6									
									3	7					76.4	3	13										
									3	6					92.5	3	10	93.5									
									3	5					98.0												
					メデア研修	1	パソコンを使った映像編集入門	3	0	3	13	94.5	2	パワーポイント入門	2	0	3	14	86.7								
										3	14	91.5					3	13									
										3	12	95.4															
										3	14	88.6															
										3	15	94.7															
					3	チラシ・広報誌作成入門	3	0	3	15	84.6	2	チラシ作成入門	2	0	3	14	81.4									
									3	15	84.6					3	12										
					その他の研修	しまね学習支援プログラム体験講座	6	4	30	17		1	社会教育委員・公民館長等研修	1		12	60	83.8									
										14	90.4																
										11	87.5																
										14	89.3																
										9	90.6																
										9	96.1																
										18																	
										9																	
										30																	
										9																	
合計	18	8	159	784	合計	36	19	226	1707	合計	37	23	264	1778													
		26				55					60																

このように、講座数・研修開催回数・研修開催時間は確実に充実している。研修機会の量的な見直しは十分に図れたといえる。量的な充実によって、社会教育指導者・担当者の研修参加の選択範囲も大幅に増え、参加者数も確実に伸びている。この参加者数の伸びは、研修体系の見直しに合わせ、各市町村担当者・派遣社会教育主事への働きかけや関係機関・関係者への周知にも力を注いだことが大きく反映していると考ええる。

また、研修内容の質的な評価のひとつの基準とするため、講座ごとのアンケートに「満足度」をパーセントで記入する欄を設けた。この満足度をみると、予想以上の数字があがっている。この満足度による評価については、検討の余地があるものの、参加者からは一定の評価があるといってよいだろう。ただ、質的な評価については、今後、研修参加状況の細かい分析（参加者個々の研修歴・市町村別参加状況等）や追跡調査の実施、平成22年度の県と本学センターとの連携事業である「公民館等職員の勤務実態・研修状況及び学習機会の提供状況に関する実態調査」の分析等によって、明らかにしていく必要があると考える。

#### IV. おわりに

全面的に見直した社会教育指導者・担当者研修を実施して2年目が終わろうとしている今、社会の激しい変化や財政的な厳しさに対応するため、また、社会教育の意義や役割を実証していくため、さらなる検討・見直しが必要になるであろう。

今後、社会教育指導者・担当者の研修体系を検証・検討し、課題として対応していくべきことは、次のように考える。

- 1 研修体系が市町村・地域の実態やニーズに対応しているものか否かの検証とその対応
- 2 各市町村にバランスよく社会教育指導者・担当者が養成されているか否かの検証とその対応
- 3 研修成果が地域で活かされているか否かの検証とその対応
- 4 研修施設から遠隔地の参加状況の把握とその対応
- 5 研修の必要性の認知度とその対応
- 6 各市町村・各公民館等・各職員の研修に対する温度差の解消に向けた取組の検討
- 7 各市町村社会教育指導者・担当者の勤務実態に応じた研修のあり方の検討
- 8 より高いレベルの研修が求められる指導者研修を実施するために必要な外部講師活用の検討
- 9 社会教育関係機関・団体等の枠を越えた新しい連携・協働のあり方の検討  
(例：鳥根県教育センター・中山間地域研究センター等との連携・協働)
- 10 国・県の社会教育の動向や社会の要請から検討

これらのことを検証・検討し、課題解決していくことは容易ではない。しかし、今日の学校に目をむけると、肥大化し、子どもや教職員・保護者にさまざまな問題が次々に起きている現状にあるとあってよいだろう。池田寛氏が残した“今、学校という家が建っている土地が液状化現象でずぶずぶとしてきている。そこで家屋だけ一生懸命建てようとしても難しいわけです。その液状化現象を起こしている土地そのものを補強していかなければならない時代になってきているのではないかと思います”<sup>7)</sup>という現状なのである。

そこで、学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体の教育力向上をめざすことが強調され

ている。つまり、『社会教育の出番』なのである。社会教育が、学校教育や家庭教育に積極的にアプローチして、社会全体・地域の教育力向上につなげることが求められている。

この求められている社会教育の意義や役割を実証するために、“自覚をもち、地域のビジョンを描き、幅広い知識や技能をもって、熱い思いをもって実行できる社会教育指導者・担当者”を一人でも増やしていくことが社会教育行政の喫緊の課題である。

本稿では、研修を提供する立場である生涯学習推進センターの研修体系の見直しの過程から、社会教育指導者・担当者研修のあり方を考察し、新たな検証・検討・対応事項を明らかにした。容易ではないが、社会教育関係者一丸となって、新たな課題解決に向けての取組が動き出すことを期待する。

同時に、研修を受ける側である市町村教育委員会や公民館等の職員体制・勤務状況・勤務形態・職務内容等から、研修に対するモチベーションや研修参加を阻害している要因等を分析・考察する必要も感じている。そのために、今年度実施した県と本学センターとの連携事業である「公民館等職員の勤務実態・研修状況及び学習機会の提供状況に関する実態調査」を有効に活用していきたい。

## 注

- 1) 佐久間章著「生涯学習を推進する指導者は誰か ― 生涯学習支援の中で社会教育主事は生き残れるか ―」『社会教育』全日本社会教育連合会，第62巻5月号，2010年，p20
- 2) 大矢敬子著「社会教育は眠らない」『社会教育』全日本社会教育連合会，第62巻5月号，2010年，p72
- 3) 島根県立社会教育研修センターからの情報・資料提供による
- 4) 島根県立生涯学習推進センター・島根県立西部生涯学習推進センター「平成18年度調査研究事業報告書」『公民館等職員の職務及び研修状況に関する実態調査』平成19年3月，p1
- 5) 島根県立生涯学習推進センター・島根県立西部生涯学習推進センター「平成18年度調査研究事業報告書」『公民館等職員の職務及び研修状況に関する実態調査』より
- 6) 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター「平成19年度社会教育を推進するコーディネーターの役割及び資質向上に関する調査研修報告書」平成20年4月，p58
- 7) 高田一宏編『コミュニティ教育学への招待』解放出版社，2007年